

カシオペア

EF510+E26系

共通組み立て説明書

注意

お買い上げのお客様へ必ずお読みください。

- 本商品の対象年齢は15才以上です。対象年齢未満のお子様には絶対に与えないでください。
- 小さな部品があります。口の中には絶対に入れないでください。窒息などの危険があります。
- 鋭角の危険がありますので、3才未満のお子様には絶対に与えないでください。
- ペースメーカーをご使用の方は、マグネットカブラー(連結器)を身体に近づけないようご注意ください。
- マグネットカブラー(連結器の部品)は磁石を使用していますので、テレビ・時計・パソコンなどに近づけないでください。磁気で機能異常が起こる場合があります。

組み立てる時の注意

- 取り付け部を無理な方向に曲げたり引っ張ったりしないでください。
- 部品はプラスチック用ニッパーなどできれいに切り取りましょう。切り取った後のクズは捨ててください。
- 部品の中には、やむをえず、とがった部分がありますので、気をつけて組み立ててください。
- シールは、必要な部分を切り抜いて貼ってください。
- 部品の加工の際の汚物、工具などのご使用にあたっては、それぞれの取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。
- Nゲージ鉄道模型のパーツなどのご使用にあたっては、それぞれの取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。

(お買い上げのお客様へ) 不都合な点がございましたら、下記までお問い合わせください。

☎電話受付先▶ バンダイお客様相談センター
〒277-8511 柏市豊四季241-22 ナビダイヤル 0570-041-101

●受付時間 10時～17時(祝日、夏季・冬季休業日を除く)
●FAX、IP電話等をご利用の方は04-7146-0371におかけください。

☎商品・修理品送付先▶ バンダイ 栃木修理・配送センター
〒321-0298 栃木県下都賀郡壬生町おもちゃのまち5-4-67
●営業時間 10時～17時(土、日、祝日、夏季・冬季休業日を除く) 電話番号はお客相談センター共通

機関車用シャーシの組立て

1 <シャーシの組立・1>

- 車輪押さえに、車輪をセットして床板を合わせます。カブラーポケット部は、パチンとなるまでしっかり押し込んでください。

カブラーの向き
平らな面を上

- カブラーのマグネットには極性(S・N)があります。編成を組むときは、向きに気をつけてください。

ダミーカブラー
(連結は出来ません)

自動連結器

- 先に車輪押さえにセットしてから、シャーシを組立てます。

2 <シャーシの完成>

- シャーシ側面に、車輪カバーを取り付けます。

向きに注意!

- 車輪カバーの向きに注意してください。

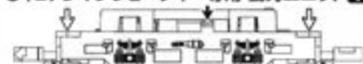
Nゲージ化用パーツの取り付け方法

●各種の交換パーツについては、鉄道模型店、ホビーショップなどで買い求めください。

※BTレインジョーティは、動力ユニット(別売)を装着することで、Nゲージの線路上を走行させることができます。

①機関車への動力ユニットの取り付け

- 「BTレインジョーティ専用・動力ユニット①」機関車用を使用します。



●床板前後の穴と、左右2箇所の爪で、車体と固定します。

- 床板(シャーシ)部分を外して、動力ユニットに交換・装着してください。
- スノープロウは着脱可能です。(カブラーポケットの溝に、爪をしっかりと掛けてください。)

●EF200、EF210、DD53などでは、車体長が長いためカブラーの首振り角が充分にできません。重連運転や、極小カーブ、Sカーブ上では、連結に不安定な場合がありますのでご注意ください。

②電車・気動車及び路面電車への動力ユニットの取り付け

- 「BTレインジョーティ専用・動力ユニット②」電車・気動車用
もしくは「同 動力ユニット③」路面電車用を使用します。



●左右4箇所の爪で、車体と固定します。
●ゆるい場合には、両面テープなどで固定してください。

- EF200、EF210、DD53などでは、車体長が長いためカブラーの首振り角が充分にできません。重連運転や、極小カーブ、Sカーブ上では、連結に不安定な場合がありますのでご注意ください。
- 台車側面に、台車レリーフを取り付けてください。
(追加ウェイトは、走行状況に応じて使用してください。車内の空きスペースに、両面テープなどで固定します。)

③トレーラー(動力の無い車両)への台車の取り付け

- 「BTレインジョーティ専用・走行台車④」を使用します。

- 台車部分を外して(床板は付けたまま)、走行台車をセンターピン穴に装着してください。
- 台車側面に、台車レリーフを取り付けてください。
- 旧タイプ床板では、台車の回転止めピンがあります。また、初代床板ではカブラー台座と車輪止め用ピンがありますので、走行台車と当たる部分は切り取って使用してください。

- 台車に取り付けた「台車レリーフ」が走行中に落下しないように、取り付けがゆるい場合には接着剤などを使用して固定してください。
- スカートのある先頭車に、動力ユニットと走行台車を取り付ける場合は、スカートを切り取るか、または台車のカブラー部分を切り取ってから装着してください。
- 新幹線など車体側にカバーのある車両では、台車レリーフを取り付けできません。

- 各種の交換パーツは、メーカー、形式によって取り付けが異なる(緩い)場合もありますので、それぞれ調べるうえ取り付けてください。またパーツによっては加工が必要なものもあります。
- 動力ユニットの装着には、車種によっては車体側面の一部(ガラス、スカートなど)や、動力ユニットの床板などを切り取る等の加工が必要な場合があります。

- Nゲージ用の線路、コントローラーなどは、別途ご用意ください。
- 線路、コントローラーは、各社のNゲージ規格の製品が共通に使用できます。
- Nゲージにおける使用法は、各社Nゲージの取り扱い説明書をご覧ください。
- 走行条件によって、牽引できる車両の数は異なります。
- 動力ユニット1台で、通常は4両程度を牽引(自車含む)することができます。
(勾配区間や急カーブのある線路では、牽引できる両数が制限されます。)

■ KATO製の動力ユニットを使用することもできます。

①機関車用・動力ユニット(スカートは取り外してください。)

- 品番11-103 ポケットライン用動力ユニット
- EF64、DF50、DD53など、車体裾の低い車両には装着できません。

●11-103は、購入時にはカブラーポケットの内側にストッパー(プラ小片)が入っていますので、必ずストッパーを取り外してから装着してください。

②電車・気動車用・動力ユニット(台車レリーフは取り付けできません。)

- 品番11-105 通勤電車①: コイルバネ台車タイプ
- 品番11-106 急行電車①: 空気バネ台車タイプ
- 品番11-107 通勤電車②: ボルスタレス台車タイプ
- 品番11-104 ティビ客車用動力ユニット

●KATO製「ティビ客車用動力ユニット」を使用する場合は、手すりを切り取ってからシャーシと交換・装着します。
(車両によっては、床板の一部を切り取る加工が必要な場合があります。)

③トレーラー用・台車(台車レリーフは取り付けできません。)

- 品番11-099 通勤電車①: コイルバネ台車タイプ
- 品番11-098 急行電車①: 空気バネ台車タイプ
- 品番11-097 通勤電車②: ボルスタレス台車タイプ

このほか、別ピン取り付け方式の、各社・台車を取り付けることができます。

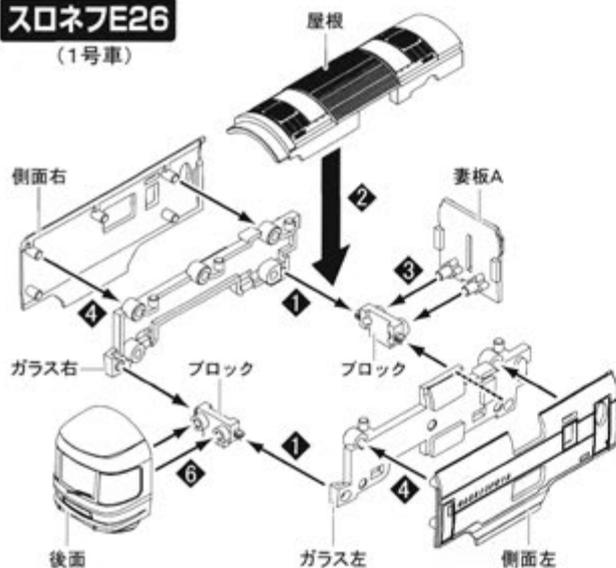
■パンタグラフの交換

- お好みのNゲージ用パンタグラフを別途買い求めの上、交換してください。
 - KATO:11-401 PS14:濃連/パンタグラフ
 - KATO:11-403 PS22:濃連/下幹交差形パンタグラフ
 - KATO:11-404、11-420 PS16:濃連/パンタグラフ
 - 11-420は、屋根高が4個の屋根に対応します。
 - グリーンマックス:80-2:PS13:濃連/パンタグラフ
 - グリーンマックス:80-3:PT42:濃連/パンタグラフ
 - グリーンマックス:80-5:PT43:濃連/パンタグラフ
 - クロスポイント:PT17C:シノクアルーム/パンタグラフ
- このほか、取り付けピンが縦2本方式の、各社・パンタグラフを取り付けることができます。



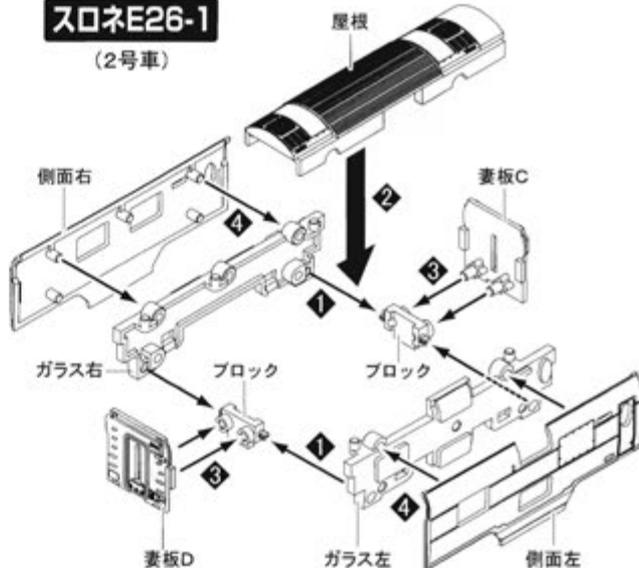
スロネE26

(1号車)



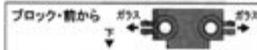
スロネE26-1

(2号車)



車体の組立て

- ①左右のガラスの前後にブロックを取り付けます。
*ブロックの上下の向きに注意して、パチンと奥まではめ込んでください。



- ②屋根を取り付けます。
- ③妻板を取り付けます。
(後尾車は後方1枚、中間車は前後2枚取り付けます。)
- ④左右の側面を取り付けます。
- ⑤シャーシのつめに合わせて車体をかぶせます。
(中間車は完成です。)
- ⑥後尾車は後面を取り付けて完成です。

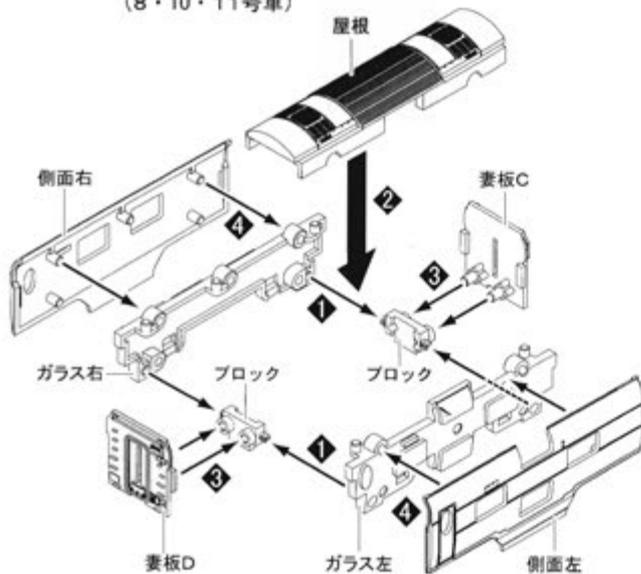
スロネE27-402・401

(5・9号車)



スロネE27-1・301・201

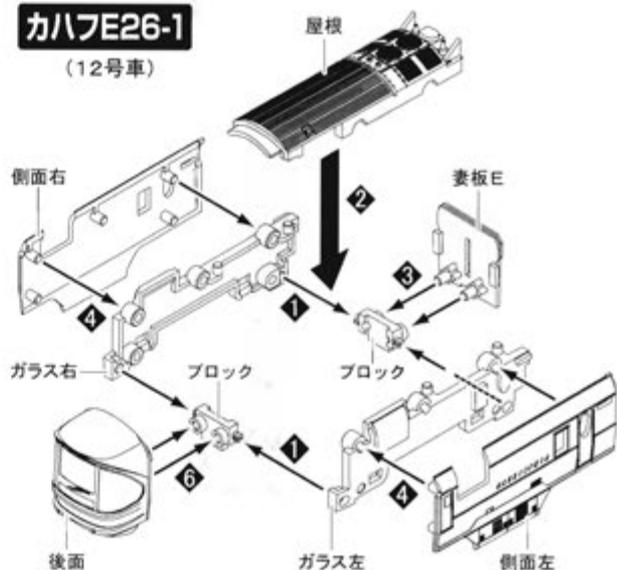
(8・10・11号車)



*スロネE27-302(6号車)、スロネE27-202(7号車)も同じ車体となります。

カハE26-1

(12号車)



マシE26-1

(3号車)



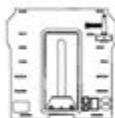
スロネE27-101

(4号車)



妻板について

(札幌寄り)

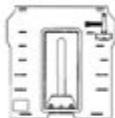


妻板A
銘板あり
(スロネフE26)

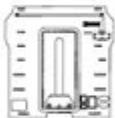
(上野寄り)



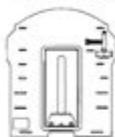
妻板E
低屋根タイプ
(カハフE26)



妻板C
銘板なし
(中間車・札幌寄り)



妻板D
銘板あり
(中間車・上野寄り)

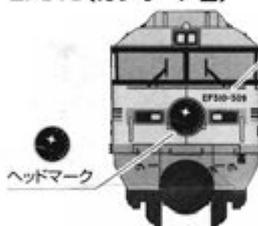


妻板B
丸屋根タイプ
(マシE26)

ステッカーの貼付け位置

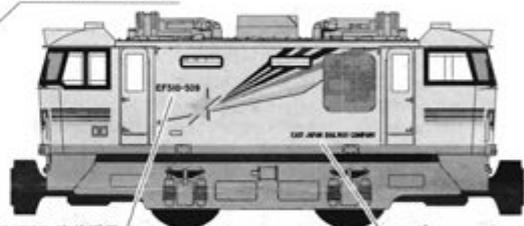
*貼り付け位置の参考例です。台紙からお好きなものを選んで、切り抜いて貼ってください。
(刃物のお取り扱いには、充分にご注意ください。記載の無いものはお好みの位置にお貼りください。)

EF510(カシオペア色)



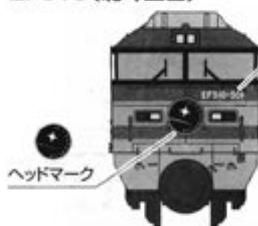
ヘッドマーク

車体番号 EF510-509



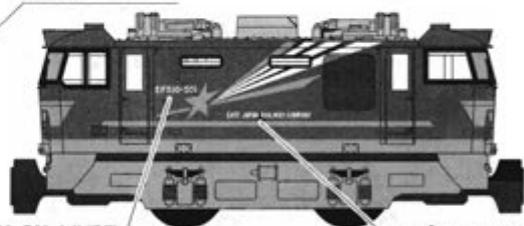
EF510-509 車体番号

EF510(北斗星色)



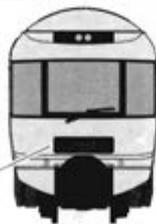
ヘッドマーク

車体番号 EF510-501



EF510-501 車体番号

スロネフ E26



緩急車LED表示幕



車体番号

カハフ E26-1



緩急車LED表示幕



車体番号

機関車用車体の組立て

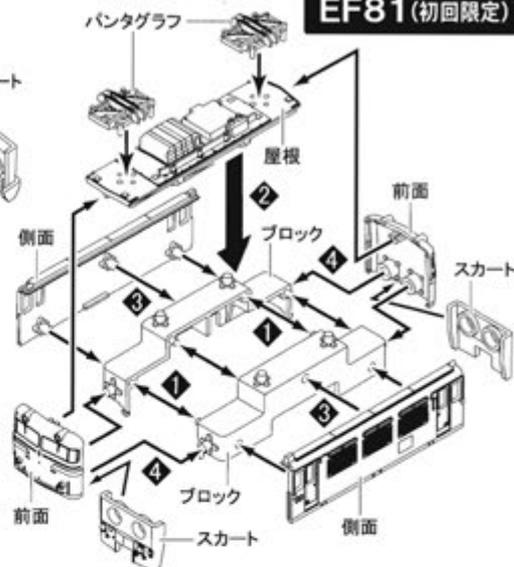
- ①左右のブロックを合わせます。
- ②屋根を取り付けます。
(パンタグラフを取り付けます。)
- ③左右の側面を取り付けます。
- ④前面を取り付けます。
(先にスカート在前面に取り付けます。)
- ⑤シャーシの穴、爪に合わせて車体をかぶせて完成です。



*取り付け部が固い場合があります。その場合にはドライバーの先などを利用して、しっかりと取り付けください。

*取説に記載されている車両は、バリエーション内の一部です。正面パーツ、屋根パーツなどは、車種・塗装によってセットされているパーツが異なりますのでご注意ください。

EF81(初回限定)

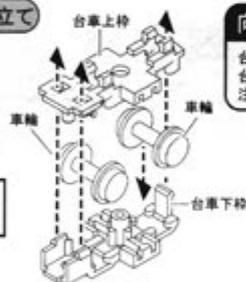


客車用シャーシの組立て

1 <台車の組立>

*車輪2個をはさみながら、台車下枠の3箇所のツメを、台車上枠に通します。

*前・後、2組の台車を、それぞれ組み立てます。



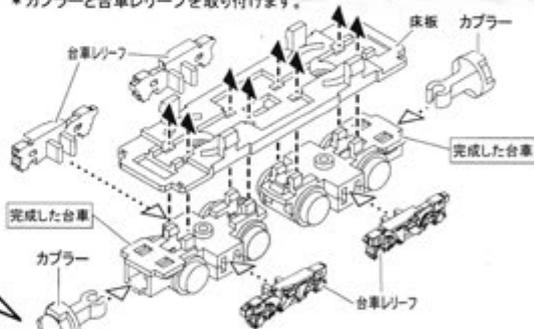
向きに注意!

台車上枠の向き
台車下枠の向きに
注意してください

2 <シャーシの完成>

- *出来上がった台車の4箇所のツメを床板に通します。
- *カブラーと台車レリーフを取り付けます。

*カブラーのマグネットには極性(S・N)があります。編成を組むときは、向きに気をつけてください。



カブラーの向き
平らな面を上

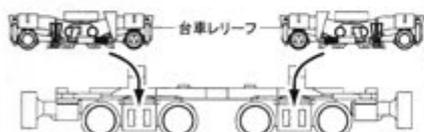
ダミーカブラー
(先頭車正面などに使用します。)
*連結はできません。

密着連結器
(JR電車ほか)

自動連結器
(各車・気動車ほか)

ドローバー
(2両を固定連結する場合
に使用します。)

台車レリーフの向きに注意。



実車の編成例

*時期によって、編成や車体形状は変化していますのでご注意ください。

一札幌

上野→

カハフ E26-1	スロネ E27-201	スロネ E27-301	スロネ E27-401	スロネ E27-1	スロネ E27-202	スロネ E27-302	スロネ E27-402	スロネ E27-101	マシ E26-1	スロネ E26-1	スロネフ E26-1
--------------	----------------	----------------	----------------	--------------	----------------	----------------	----------------	----------------	-------------	--------------	---------------

カヤ
27-501

*カヤ27が予備電源車として連結することもあります。(連結される際には号車番号はなし。)

機関車 上野⇄青森 EF510-501~508-511(北斗星色)、509-510(カシオペア色)
*2010年6月24日まで、EF81-79-92-99も限定使用されていました。

青森⇄函館 ED79-14-7-10~14-18-20

*2001年までED76-551が使用されることもありました。

函館⇄札幌 DD51-1006-1054-1068-1083-1093-1095-1100-1102-1137~1138-1140~1143-1148

*現在、1006と1008は廃車

